

ダーナ

浄土宗平和協会会報 VOL.

Dana

23

「ダーナ」とはサンスクリット語で、[布施]の意。

ダーナ●第23号

発行日●平成25年12月25日

編集／発行●浄土宗平和協会（JPA）

発行人●荻野順雄

Jodo Shu Peace Association

今回のダーナでは、浄土宗平和協会・深谷雅子理事より、ご自身に関わる団体FICO (Friends International Clubs' Organization) の活動についてご寄稿いただいた。

20年前インド仏蹟参拝、ボンベイでの出来事がきっかけで「インドの子ども達に教育」を始めた。10歳くらいの男の子が私に物乞いに来た。タクシーにしがみついて離れない。ついに10ルピー渡すと、雑踏の中を走っていく姿が、今でも目に焼き付いている。お金を与えるだけでは、子どもはいつまでたっても自立できないと痛感した。

帰国後、名古屋国際センターの民間大使であったウペンダー・レディー氏と出会い、故郷の学校が廃校になるので再建を手伝ってほしいとFICO (Friends International Clubs' Organization) を設立。1996年12月25日インド・ハイダラバードダッタイ村に学校が再建できた後、インド政府に移管式が行われた。その後日印交流が始まり、ハイダラバードのB.V.B.Pスクールの生徒やインドから日本体験プログラム・日本からインド体験プログラムを隔年毎に実施している。

教育支援の里親制度も定着し、毎年FICOから優秀者10名の奨励賞と卒業するまでの教育支援10名を続けている。今年から更にもう1校農業学校が加わり3名の里親が誕生、今年の体験プログラムに同行して、直接生徒に奨学金を渡すことができた。

2004年には活動が認められ、ウペンダー・レディー氏と私はインドの首

深谷雅子理事 寄稿 インドの子ども達に よりよい教育を

都デリーで「デリー テルグ アカデミー賞」教育部門で受賞しました。ウペンダー・レディー氏のお蔭で日本人として初めて晴れの舞台でメッセージを述べることができ、夢のようでした。

FICOのメンバーで現在13名の子ども達の里親を引き受けている。今年は3名の女子が結婚し、2名の男子が都会で職業につき巣立って行ったが次に援助を望む子供が待っていて耳に障がいを持った7歳の女子と車椅子の10歳の男子二人が支援してほしいと。即座に支援することを約束した。

FICOのように小さなグループでの援助には限りがあります。世界のあちこちで勉強したくてもできない子どもがたくさんいる。安心して暮らせる世界が来ることを念じて、自分ができることをコツコツとやって行こうと思う。

ご縁に感謝して 合掌

2013年8月27日ダッタイ村中学校の校庭にて。中央が深谷理事。



新たに名古屋でも開催 ～ブック・ギフト、66名に希望図書を贈呈～

私費留学生に希望の図書を贈呈する第6回ブック・ギフトは、11月から12月にかけて、東京（大本山増上寺）、名古屋（建中寺＝名古屋市東区）、関西（大本山百万遍知恩寺）の3カ所で行われた。3会場で合計66人の留学生が、嬉しそうに希望図書を受け取った。

ブック・ギフト活動は、浄平協の主要な活動の一つで、今年から新たに名古屋地区で実施された。東京都、愛知県、関西圏の大学に通学する私費留学生に、日本語でレポートを書けば、一万円以内の希望する図書を受領できる、というもの。本年度の作文のテーマは、「日本で学んで良かったと思う時」、外国人とは思えない流ちょうな日本語で書かれたレポートが集まった（別掲記事参照）。

11月30日に贈呈式行われた東京会場では、東京大、立教大など10の大学から18人の応募があり、増上寺大蔵で、荻野順雄浄平協理事長から図書を受け取った。国籍別では中国14人、韓国2人、台湾1人。12月1日の関西会場は、百万遍知恩寺で行われ、37人の応募があった。京都大学が9人、大阪大学5人、佛教大学4人などで、東アジアだけでなくインド、スリランカ、ベトナム、モンゴル、マレーシアなどからも応募があり、服部法丸台下より、直接、図書を受け取ったほか、御影堂で数珠繰りなどを体験した。

今回初めての開催となる名古屋会場では、初回にも関わらず中国ほかネパール、インドなどの留学生12人の応募があった。名古屋大、愛知県立芸術大など5校からの応募で、12月22日、建中寺本堂で荻野理事長より、本を受け取った。その後、建中寺の徳川家墓所を見学したほか、抹茶の接待を受けるなど日本文化の一端を体験した。全体で、大学院生46人、学部生17人、研究生3人（詳しくは別掲記事参照）。

店長との2年半

趙 瑞琳（中国・武蔵野大学）

2009年3月29日、私は一生に忘れない日であった。今でも覚えているのは、空港を通過するだけで、かなりの時間がかかって、5時ごろ成田に到着したのに、住むところまで着いたのは夜の12時だった。

日本語学校で勉強しながら、アルバイトを探し始めた。最初は何十本の応募電話をかけたが、面接さえされな

かった。毎日通学の途中でも街を回って、求人広告を見逃さないようにしていた。やっと3か月後、新宿にある小さなうどん屋に採用された。連絡がきたときのうれしさは言葉でいえない程だった。

店長は50代の日本人の男性だった。18歳で高校を卒業して、料理の仕事始めたようだ。すごく厳しい人であった。日本語が未だ慣れていない、料理にも全く経験がない私にも、少しもゆるくしなかった。よくあの人に言われていたのは、「おばさんでもでき

ること、なぜお前ができないの？ お前は男だろう！」「もうお前は無理、洗い場に行きなさい」「昨日教えたじゃない？ お前はバカか？ そんなことも覚えられないの？」「君と他の人と同じ給料をもらっているのだから、同じことができないとダメ。店だけじゃない、この社会でもだ」であった。当時19歳の私にとって、非常に重い話であった。

初めて社会に出て、男として責任を負って、強くならなければならないという意識を強く植えつけられた。この店長と共に2年半、仕事をやった。何よりもうれしかったのは、自分が店を

2013ブック・ギフト贈呈内容

- 応募者数
東京…18名 関西…37名 名古屋…12名
- 授与式参加者数
東京…17名 関西…36名 名古屋…12名
- 応募者国
東京…中国14名、韓国2名、台湾1名
関西…中国26名、韓国3名、ベトナム2名、モンゴル2名、インド1名、スリランカ1名、マレーシア1名、台湾1名
名古屋…中国8名、ネパール3名、ドイツ1名
- 応募者大学別一覧（応募者数順）
東京…立教大学5名、首都大学東京2名、東京大学2名、中央大学1名、一橋大学1名、武蔵野大学1名、拓殖大学1名、国士舘大学2名、明治大学1名、駒沢大学1名
関西…京都大学9名、大阪大学5名、佛教大学4名、関西大学3名、滋賀医科大学3名、同志社大学3名、日本経済大学3名、阪南大学2名、京都文教大学1名、大阪工業大学1名、神戸国際大学1名、大阪産業大学1名、立命館大学1名
名古屋…名古屋大学5名、愛知県立芸術大学4名、愛知県立大学1名、愛知淑徳大学1名、愛知教育大学1名
- 応募者学籍一覧
東京…大学院9名、大学8名
関西…大学院28名、大学8名、研究生1名
名古屋…大学院9名、大学1名、研究生2名

辞めるとき、店長が言ってくれた「この2年半、本当に成長したな、お疲れ」の一言である。2年半、初めて認めてくれた。本人の口から。

日本へ来て学んでよかったことをまとめるとすれば、レイモンド・チャンドラーの名言を引用したいと思う。「男は強くなければ生きていけない、やさしくなければ生きる資格がない」大事なことを学んだのは、本当にあの店長のお蔭である。今でも、日々その感謝の気持ちを忘れず、頑張っていきたいと思っている。

平和学との出会い

趙 師哲（中国・立教大学）

4年前に、交換留学生として名古屋に留学した。留学先ではじめて異文化コミュニケーションという専門に出会った。中国の文化や価値観を持っている私が日本で過ごす日々は、異文化コミュニケーションを行っていると思った。しかし、授業で異文化コミュニケーションは異なる国や文化のコミュニケーションではないと教わった。同時に同じ文化圏の人々も、常に異文化コミュニケーションを行っている。自分の視野が広がり、日本という先進国で、このような先端的な専門と出会えてよかったと思う。

私が名古屋に住んでいた時、地域のある中学校の校長先生に頼まれ、日本に来たばかりの生徒の日本語の勉強を手伝った。その子は親の就労で、日本にやってきた。私のような留学生と違い、本人の意思ではなく、親が呼び寄せて来たのである。根本的なことが異なるので、日本語の勉強意欲も違う。授業で教えられたように、同じ国の出身であるが、日本での適応の仕方が違う。

彼の学習支援をしながら、親の呼び寄せで日本にきた子どもたちの問題や困難を考え始めた。彼らの直面している問題を調査するため、日本の大学院に進むことにした。日本で同じ中国出身の人と知り合い、彼らの役に

立てることは良かったと思う。そして、彼らと接しながら、自分の研究のテーマを発見し、また大学院に進学することは良かったと思う。

立教大学大学院に進学したあと、平和学という学問と出会った。外国籍の子どもの教育問題に興味があり、平和学のアプローチで分析することにした。子どもたちの問題は言語の問題だけではなく、社会・経済的な問題もたくさん持っている。義務教育段階だけではなく、義務教育終了後にも様々な問題がある。今回の修士論文では、進路を決めていく上の問題を明らかにし、現在行われている様々な支援の実態、その効果と限界を示すことにする。日本にいる中国人生徒の状況を詳しく調べ、解決方法を求めようとする。今後も増えるであろう中国人子弟の将来展望がよりよいものになるように、提言をする機会ができて良かったと思う。

現在、研究調査しながら、ボランティア活動も行っている。外国ルーツを持つ子どもに学習支援をしている。中国人の子どもだけではなく、様々な国からの子どもたちと出会った。日本の多文化共生社会のため、自分も貢献できることは良かったと思う。



大本山増上寺でのブック・ギフトin Tokyoの授与式

日本仏教を研究して

金 槿憲（韓国・佛教大学）

私が日本に留学して良かったと思うことは山ほどあります。その中でも特に日本に留学し、学んで良かったと思うことは仏教を専攻としている生徒として幅広く勉強することができること、また、日本仏教のことを研究すること（特に浄土に関すること）ができて、日本に来て良かったと思っています。

私は日本に来る前には韓国の東國大学の大学院生で、当時、日本仏教に関する知識はもちろん、仏教に関する知識は持っていなかったのですが、仏教のことの中で一番研究したいと思ったのが日本仏教でした。その前に、仏教のことをきっちり始めから勉強しないといけないと思って東國大学の在学中にはインド、中国、韓国の仏教まで勉強しました。授業で学んだ仏教の世界は深くて一生勉強してもまともにできるだろうか考えるぐらいに難しいことはいっぱいでしたが、一つずつわかっていくことがすごく大切で、楽しいと思うようになりました。だけど、学校で学んだ日本仏教のことは本を読んで感じた事とはまったく異なり、どうしたらいいのか、どう受け取らな

混迷する現代社会に対し、われわれ浄土宗は何を放つ存在であり得るのか。法然上人の説かれた「愚者の自覚」に立ち返って、肥大する数々の課題をどのように向き合うことができるのか。今回は、第37回正力松太郎賞特別賞震災支援功労賞を受賞した浜〇かふえ代表／福島教区浜通り組青年会会長で福島教区良善寺副住職の柳内悦大師に寄稿いただきました。

浜〇かふえは、浄土宗福島教区浜通り組青年会が中心となり活動している復興支援です。お問い合わせはhamamarucafe@gmail.comへ。また活動をもっと詳しく知りたい方は…… URL <http://hamamarucafe.nomaki.jp/>

訪問カフェ&傾聴ボランティア 「浜〇かふえ」

浜〇かふえ代表／福島教区浜通り組青年会会長
福島教区良善寺副住職

柳内 悦大

新たなコミュニティ作りの場として

福島教区浜通り組青年会では、現在、「浜〇かふえ」といういわき市内を中心とした仮設住宅や借り上げ住宅の集会所における訪問カフェ&傾聴ボランティア活動を継続的に行わせていただいております。平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして震災をきっかけにして起きた東京電力福島第一原子力発電所の重大事故によって不自由な避難生活を余儀なくされておられるたくさんの方々に、ちょっとしたお菓子と飲み物を召し上がりながらひと息ついていただきたい、という思いから平成23年9月下旬より原則毎週水曜日を活動日として始めた活動です。

現在では、いわき市内の6カ所の仮設住宅と2カ所の雇用促進住宅を1か月ないし2か月に一度ご訪問させていただき、アットホームな雰囲気作りを心掛けて老若男女問わず、何気ないお喋りや情報交換、新たなコミュニティ作りの場としてご利用いただいております。

「浜〇かふえ」というネーミングには、「大震災・原発事故で大きく被災した福島県の浜通り地域のみなさんが、震災以前のような平気で円満な生活を一日も早く取り戻すことができますように」という意味が込められています。また、活動の中心地となっているいわき市では、特定の宗教団体に便宜を図ることの無いように、との行政の意向から我々浄土宗などが公共の施設を借りることが難しいという現状もあり、宗教色を抑えた「浜〇かふえ」という名で活動している実状もあります。

震災後、素性の知れない支援団体も数多く被災地へ入ってきておりましたので、青年会として仮設住宅や借り上げ住宅をお伺いするのは難しい部分もありました。しかしながら、震災直後にいわき市復興ボランティアセンターに災害ボランティアとして青年会有志が登録させていただき、毎週2回、定期的に瓦礫撤去や被災家屋の片づけ

などの作業に継続して従事させていただいていた実績もあり、いわき市社会福祉協議会の了解を得て、平成23年9月下旬より「浜〇かふえ」を開催させていただける運びとなりました。

信頼関係を大切に

始めた当初は、浄青会員も住民のみなさんに受け入れてもらえるだろうか、という不安を抱きながらも会員相互にアイデアを出し合い、被災された方々それぞれの置かれている立場や環境をできる限り把握・理解するよう努力したり、お声掛けやチラシの配布、食品提供の際の衛生面への配慮など、住民のみなさんが少しでも安心して気軽にご利用いただけるような環境づくりに苦慮していたように思います。住民のみなさんの心の中にある、不安や置かれた現状や行政に対する不満、震災当時のお話などを住民の方が自発的にお話いただけるような信頼関係を築くことが最優先と考え、できるだけ同じ仮設住宅や借り上げ住宅を定期的に訪問させていただくようにいたしました。訪問を重ねることで、徐々に住民のみなさんと浜〇かふえスタッフとの間に信頼関係が構築されていくのを感じました。

訪問を始めた当初は、住民のみなさんも避難所から仮設住宅や借り上げ住宅にお移りになったばかりで、これから新たな生活を始める準備をされている時期でした。しかし、忙しい中でも仮設住宅・借り上げ住宅という新たな社会での住民相互の交流を求めていたようで、浜〇かふえがオープンすると本当に多くの方がご来場くださり、ご自分の震災当時のことをお互いにお話される姿が多く見受けられたように思います。

現在でも浜〇かふえにご来場くださるみなさん方同士で、津波被災地域に元お住まいだった方々は地域の復旧の進み具合や行政との今後の土地利用についての話し合

いの内容、災害公営住宅の建設時期についてや入居できる時期についてなどについてお話されたりしています。また、福島第一原発事故により避難生活を余儀なくされている自治体の方々は原発収束作業がどの程度進んでいるのか、汚染水漏れがどの程度食い止められているのか、政府による放射性物質を帯びた瓦礫等の中間貯蔵施設の用地の選定やその受け入れの可否、地域の除染活動の進捗状況、政府や東京電力による精神的被害・財物に対する賠償問題等、様々なことについて情報交換をされているようです。

もちろん今後の先行きについてのお話ばかりではなく、日常の他愛ない会話や冗談話などもたくさんお話され、いつも浜〇かふえが開催される集会所内は笑い声や笑顔で溢れており、不自由な避難生活の中でもささやかではありますが楽しい時間をお過ごしいただけていることは浜〇かふえスタッフもうれしく感じているところです。

「心」に少しでも元気を

浜〇かふえにご来場くださる方々には、津波・地震によってご家族・ご親族を失くされた方、住む家やお仕事を失くされた方、原発事故によって元お住まいの地域に戻れないだけでなく、生きがいであった農業を営むための先祖伝来の田畑までも汚染されてしまった方、ご家族が原発の収束作業をなさっている方、長期に渡る避難生活によってご家族が体調を崩されている方など、本当にさまざまな環境の方々がいらっしゃいます。住民のみなさんそれぞれが様々な不安や問題を抱えておられます。本当に厳しい状況が続く中ではありますが、浜〇かふえにおいてスタッフや住民同士の交流の中でみなさんの心が少しでも前向きでいられるようなお手伝いをさせていただければと考えております。

また、いわき市社会福祉協議会や原発事故による避難自治体とも連携を図り、住民のみなさんに浜〇かふえにご来場いただくことでコミュニティの結束強化を促し、被災各地で問題となっている「孤独化・孤独死」、狭い仮設住宅での生活や避難によるストレスによってかなりの増加傾向が見られる「家庭内暴力・児童虐待」といった問題の防止・抑止を目的とした見守り活動としても貢献できればとも考えて活動を続けているところです。

浜通り組青年会では浜〇かふえに来ていただいたみなさんに、「心」に少しでも元気を取り戻して帰っていただ

きたいと考え、これまで通常のお茶会形式のカフェ以外にも、多方面からのご協力・ご支援を頂戴しながら「芋煮会」・「もちつき」・「豆まき」・「写経会」なども開催させていただきました。さらには、滋賀教区青年会様による「米一升運動」で集められた「近江米配布会」、大阪教区青年会様のご支援による「落語会」や「マジック・大道芸ショー」、児童教化連盟辻本理事長の率いる「ファミリー劇団なむなむパネルシアター」、ともいき財団のご協力による「ピワキュー」、臨済宗妙心寺派僧侶による「わらべ地蔵寄贈会」、万華鏡コミュニケート様による「万華鏡作り教室」なども浜〇かふえに併せて開催させていただきま

した。ご参加くださった住民のみなさんからは「久しぶりに腹の底から笑ったよ」、「いつも楽しい時間をありがとうございます」などの声も聞かれ、わずかな時間ではありますがみなさん心より喜ばれておられました。継続的な活動をする中で、こういった様々なご支援が住民のみなさんの元気に繋がっていることを肌で感じておりますが、ご支援そのもの以上に全国各地の支援者のみなさんが見守り続けてくれているその被災地へ想いが、浜〇かふえに来てくれるみなさんの「心の復興」に繋がっているのではないのでしょうか。

福島では、原発事故の影響がまだまだ色濃く残っており、これから先も様々な問題と長期に渡り付き合っていくかねばならないのが現状です。全国のみなさまには、今後も福島県をはじめ被災各地を見守りいただき、想いを寄せ続けていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

浜〇かふえの様子



ダリット女性保健プロジェクト報告

IMADRはネパールのフェミニストダリット協会 (FEDO) と共に、ダリット女性の保健サービスプロジェクトを実施しています。ダリットとは、カースト制度のもと最下層におかれた人びとであり、不可触民と呼ばれ、歴史的に差別と排除を受けてきました。「ダリット」という名前は、彼女らが自らつけたものです。ダリット女性は、ダリットとして、また女性として複合的な差別を受けています。

ダリットの女性の現状

FEDOは20年以上ネパールのダリット女性の諸問題に関する活動を行ってきました。IMADRは、浄土宗平和協会の財政支援をえて、この3年間、FEDO パルサ支部の「ダリット女性の保健部門への平等なアクセス」プロジェクトを実施してきました。

FEDOパルサ支部では、ネパール中部のシルシヤVDC (村落開発委員会) とビルグング市の「保健部門のプログラムにおけるダリット女性の平等なアクセス」プログラムを中心に、この3年間活動を行ってきました。

その活動において、FEDOパルサ支部は政府機関および非政府機関に対してダリットコミュニティの問題を提示してきました。

世界は進歩を遂げている中、ネパールのダリット女性は、女性に対するさまざまな形態の暴力や保守的な文化と伝統などに抑圧されています。ダリット女性たちの健康や教育に関する現状を見れば、彼女たちが進歩から取り残されていることがよくわかります。FEDOパルサ支部はこうしたダリット女性の状況を改善し、女性たち自身が保健サービス利用の権利について学べるようなプロジェクトに取り組んできました。

2013年4月から9月までの活動のまとめ

上半期は予定通りに進みました。16の女性グループは定期的に会合をもち、毎月貯金をしてきました。グループは、日常生活における衛生の問題と母子保健の問題についてトレーニングを受け、話しあいをしてきました。しかし、トイレの設備がないことは衛生状態を改善する上での問題として残ったままです。

地域の女性たちに、FEDOパルサ事務所へ気軽に立ち寄り、保健に関する問題について相談するように宣伝をしてきました。上半期中、FEDO相談プログラムを通して地区の保健所に行き、サービスをうけた女性の正確な数は把握されていません

でした。今後はこのプログラムを通してサービスを利用した人数を記録するよう保健所をお願いをしました。ただし、何人かに聞いた話によれば、以前よりも妊娠期間中あるいは出産時に保健所を訪れる女性の数は増えているということでした。

女性たちに、早婚(テライ地域ではとても一般的である)と出産時のリスクの高まりの関係について伝える上で、まだ難しさは残っています。これはFEDOパルサにとっての課題であり、引き続き重点的に取り組んでいきます。

全体的にみて、プロジェクトは順調に進んでおり、女性たちや周囲の人びとの反応も良好です。このまま順調に進むことを願っています。



FEDOパルサ支部でのある支援グループの会合風景

「第6回浄土宗平和賞」×切り迫る ～ぜひ多くの推薦をお願いします～

浄土宗の教義を広め、儀式を行うという寺院の活動にとどまらず、「社会参加する仏教」を志向し、平和推進、国際協力に関する活動を始め、環境保護活動、国際交流活動、地域福祉活動など、幅広い分野で公益のための活動を行っている浄土宗寺院・教師または浄土宗教師が代表(中心的な役員)を務める団体を顕彰し、支援するものです。

また同時に浄土宗平和協会の広報誌「ダーナ」などを通じて受賞寺院(浄土宗教師)の活動内容や、ノウハウなどの情報を提供し、活動事例として各会員の社会参加型事業への取り組みを啓発、醸成することを目的として創設されました。

◆賞の内容

賞状・副賞(50万円)

◆表彰対象

1. 浄土宗寺院・教師
2. 浄土宗教師・寺族が代表(中心的な役員)を務める団体

◆選考方法・表彰

浄土宗平和協会の理事会によって選考し、浄土宗平和協会総会の席上、表彰し副賞を授与します。(平成26年6月頃を予定)

◆募集方法

1. 公募(自薦他薦問わず)
2. 教区長、教化団長、浄青会長、浄土宗平和協会会員による推薦

◆応募・締切

所定の推薦書に必要事項を記載の上、当協会事務局まで郵送してください。

応募の締切は平成26年1月末とします。

◆受賞対象の活動事例について

以下は候補となる活動事例の一部を挙げたものです。

※国際交流団体を寺族及び檀信徒が中心になってつくり、海外の恵まれない人々への教育・医療・福祉その他の人道支援を継続的に行っている。

※日本で生活する留学生に奨学金を送り、生活の支援を行っている。

※日本文化の紹介のために、地域と一緒に、寺を会場にお茶やお花、能楽などのフェスティバルを行い国際交流を図っている。

※地域NGOを組織し、町並み保存、伝統的景観保存など“まちづくり”運動を行っている。

※地域の盆踊り大会を主催し、町を挙げての一大イベントになっている。

《推薦書送付先/問い合わせ》

JPA東京事務局(平和賞担当: 杉浦靖俊)
〒191-0011
東京都日野市日野本町2-12-13
大昌寺内
TEL: 042-581-2125 FAX: 042-581-2125

◎ JPA東京事務局より

報告●浄土協事務局長・川副春海

東アジアが、少しきな臭くなってきている。J. F. ケネディ大統領の長女キャロライン・ケネディ大使の着任もあって、日米関係は良好のように見えるが、お隣の日韓、日中関係が、領土問題、防空識別圏問題などもあって、ギクシャクしたままだ。

日中関係に限って、浄土宗平和協会がここ10年の間にどんな活動してきたか、振り返ってみよう。08年3月、中国政府のチベット弾圧に際し、「武力では平和は築けません。武力は怨みを生み出し、果てしない報復の連鎖を生み出します」とした仏教精神に基づいた声明を発表した。同年、5月には、四川省大地震に際して、被災者救援のため、ミャンマー大洪水支援とあわせて緊急募金を行った。全国の浄土宗御寺院から1,220万円ものご喜捨をいただき、ロックフェラー財団などを通じて、早速現地へ届けた。

その年、12月からは私費留学生に希望の図書を贈呈するブックギフトin Tokyoが始まり、今年まで(名古屋、関西を含めて)227人も中国の留学生に、本を贈ってきた

隣国とはいえ、武力弾圧などには、毅然として声明を出すものの、自然災害など人々の生命を脅かす事態に際しては、全浄土宗御寺院のご協力を得て、救いの手をさしのべる。特に、ブックギフトは、東京、名古屋、大阪とも最も応募者が多いのが中国の留学生だ。これまでの6回のブックギフトで227人の中国人留学生に図書を贈呈してきた。応募してくる留学生の多くが、東大、阪大、京大、名古屋大など名だたる学校の学部生、大学院生である。応募の作文を見ると、ともすれば日本の大学生以上に美しい日本語を書き日本の良さを知悉している。彼らは本国に帰れば、エリートの人材だ。必ず日中関係の改善に貢献してくれると信じる。

浄土協の活動は、ささやかだが確実に社会に浸透していると感じてやまない。

予告!

浄土宗平和協会
第8回スタディツアー

NYグラウンドゼロで平和の祈りを捧げ
アメリカで宗教を学ぶ

浄土宗平和協会は平成26年9月1日(月)から9日(火)まで8泊9日の予定で、アメリカ・ニューヨークの同時多発テロで標的となったワールド・トレードセンター跡地グラウンド・ゼロで平和の祈りを捧げ、米国屈指の大学ハーバード大学(ボストン)、カルフォルニア大学で宗教の講義(日本語)を聴くほか、天台宗ニューヨーク別院、NYビレッジ禅堂で、アメリカ化された仏教を体験、プロテスタント教会でミサにも参列します。ニューヨークまたはボストンでアメリカ大リーグの観戦ツアー(オプション)、ショッピングも十分に楽しめるスケジュールになっています。



ニューヨーク・グラウンドゼロ

表の旅程は、変更の可能性があります。正式には来年5月発行のダーナに申込書を同封します。浄平協のツアーは毎回、定員オーバーでお断りする可能性があります。今回は電話で仮予約を取ることにしました。仮予約は電話で。仮申込より来年8月1日(金)まではキャンセル料はかかりません。申込受付はBS観光アショカツアーズまで。浄平協会員は5%引きとなります。

○旅行期間:平成26年9月1日(月)~9日(火)8泊9日

○旅行代金:40万円前後

○参加人数:約30人

【問い合わせ】アショカツアーズ/Tel:06-6444-2225 (担当:道家、川田、藤本)

日にち	発着都市	現地時間	交通機関	摘要
9月1日(月)	成田空港 発 ニューヨーク 着	16:55 16:50	UA-078	成田空港→[ユナイテッド航空] ニューヨーク日付変更線..... 着後、ホテルへ 【ニューヨーク:マリオット・マーキス泊予定】
9月2日(火)	ニューヨーク	終日		終日、ニューヨークにて研修 [天台宗ニューヨーク別院、禅道場・教会視察など] 【ニューヨーク:マリオット・マーキス泊予定】
9月3日(水)	ニューヨーク	終日		午前、ニューヨークにて研修 [グラウンド・ゼロ、トリニティ・チャーチ、ウォール・ストリート] 午後、自由行動 【ニューヨーク:マリオット・マーキス泊予定】
9月4日(木)	ニューヨーク 発 ボストン 着	15:45 17:00	UA1116	午前、自由行動 《オプションツアー》=メトロポリタン半日観光(9:30~12:00) ニューヨーク→[ユナイテッド航空] ボストン 着後、ホテルへ 【ボストン:コプリイ・マリオット泊予定】
9月5日(金)	ボストン	終日		終日、ボストンにて研修 [ハーバード大学にてヘレン・ハイテッカー氏による講演予定、歴史地区車窓観光] 【ボストン:コプリイ・マリオット泊予定】
9月6日(土)	ボストン 発 サンフランシスコ 着	11:15 14:38	UA-477	ボストン→[ユナイテッド航空] サンフランシスコ 着後、自由行動 【サンフランシスコ:ヒルトン・ユニオンスクエア泊予定】
9月7日(日)	サンフランシスコ	終日		終日、サンフランシスコにて研修 [カリフォルニア大学バークレー校にてマーク・グラム氏による講演予定、米国聖公会大学院(BS)、教会にてミサに参加予定] 【サンフランシスコ:ヒルトン・ユニオンスクエア泊予定】
9月8日(月)	サンフランシスコ 発	11:15	UA-837	サンフランシスコ→[ユナイテッド航空] 成田空港 【機中泊】日付変更線.....
9月9日(火)	成田空港 着	14:10		



O P I C S

フィリピン大水害に義援金

浄土宗平和協会は浄土宗とともに11月20日未曾有の大洪水に襲われたフィリピンの被災者へ、義援金を贈った。東京都港区六本木のフィリピン大使館で、豊岡謙尔宗務総長、荻野順雄浄平協理事長、新谷仁海災害対策復興事務局局長がおとずれ、アンジェリカ・C. エスカロナ・フィリピン公使に、義援金の目録を贈った。

台風30号によるフィリピン大水害は、11月中旬の時点で台風による死者・行方不明者は計7,700人以上に達し、今回の台風の影響で約1290万人が被災し、400万人程が避難生活を強いられていると言われており、住宅の再建やがれき処理など復興に向けた課題は山積している。

浄土宗平和協会は、一昨年度より会則(細則)を変更し、急な災害の場合は、募金をする前に、平和基金から取り崩して、支援に充



てることが出来るようになった。このため、理事の同意を得て、50万円をフィリピンに送った(浄土宗は100万円)。

同封の平和念仏募金は、フィリピン災害の募金を兼ねており、ぜひみなさまの浄財をお寄せいただきたい。

私

も浄平協会員

京都教区檀王法林寺
信ヶ原雅文師



今回の「私も浄平協会員」は、京都教区檀王法林寺住職の信ヶ原雅文師です。袋中上人ゆかりの檀王法林寺では、袋中上人の仏教を通じて平和な世界の実現を希求された精神を大切に、毎年8月6日には原爆犠牲者追悼法要を勤めるなど、様々な活動に取り組んでいらっしゃいます。

16年前、前住職は遷化しましたが、戦前、戦後にかけて、精力的に活動を続けた立派な上人でした。京都府庁に勤め、青少年育成の部署に所属していたこともあって、戦後の京都の青少年育成、はたまた仏教会をどうするのか、たいへん憂いて、宗派を超えた青年僧に声を掛け、当山で毎晩のように議論を重ねたと聞いています。

それが、後に清水寺の貫首を勤められた大西良慶師を中心とした「京都仏教徒会議」、そして「京都宗教者平和協議会」の結成へとつながるのです。両団体が行ってきた「京都平和の集い」は今年で52回を数え、10数年前からは当山で行うことになりました。ちょうどその頃から少しあとでしょうか、浄土宗平和協会に入会したのは。

袋中上人が当時の琉球に仏教、浄土教を広めたのはご存じかと思いますが、仏法と同時に平和、命を大切にするという精

神を人々の心に根付かせたからこそ、今でも袋中上人が語り継がれる所以なのでしょう。

過去の様々な苦難を経て、今日本は平和です。檀王法林寺でも、「京都平和の集い」の他にも、沖縄の人々に対する慰霊と平和に感謝する集いを行うなど、様々な平和に関する催しをしています。しかし、世界に目を向けると、まだまだ平和とはほど遠い国、地域はたくさんあります。浄土宗平和協会の活動は、NGO支援を通じて、世界の平和を希求するということに大きな意義があります。また、志のある多くの上人方の活動を表彰することを通じて、私を含め多くの僧侶の活動を触発することにもつながっているのではないかと思います。

これからも、平和へのアピールを日本、全世界に向けて発信し続けてくださることを願っています。

浄土宗平和協会（JPA）

◎ 会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



ブックギフト in Tokyoで本を受領した留学生

[入会要項] 浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

正会員

対象……浄土宗教師・寺族
会費……年間10,000円

賛助会員

対象……檀信徒、企業や宗教法人以外の団体
会費……檀信徒会員 年間 2,000円
法人会員 年間 10,000円（一口）

正会員は、入会時に「私たちは平和を祈念します」と記された会員プレートを贈呈します。賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダナーに芳名を掲載します。正会員、賛助会員は、スタディーツアーに割引料金で参加できます。

◎ 平和念仏募金のご協力をお願い

平和念仏募金は、各NGO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、社会参加するお寺を顕彰する浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

恐縮ではございますが、何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆平和念仏募金は、浄土宗劈頭宣言にある愚者の自覚に立ち返り、「世界に共生」する平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金です。
- ◆①世界の人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する一の方針のもと、国

際的に活躍するNGO（非政府組織）を支援しております。
◆私費留学生希望図書支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生へプレゼントした書籍の購入費として役立たせていただきます。

JPA 浄土宗平和協会4つ活動

- 1 平和念仏募金運動
- 2 ブック・ギフト事業
- 3 浄土宗平和賞
- 4 スタディーツアー・NGO支援

浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……荻野順雄	監事……塩竈義明
副理事長……小泉顕雄	村上真瑞
理事……小林正道	専門委員……戸松義晴
理事……橋田邦俊	茂田真澄
石上源應	事務局次長……服部光雅
山川正道	事務局……中野隆英
深谷雅子	杉浦靖俊
金田進徳	齋藤隆尚
東海林良雲	鍵小野和敬
泉 禮子	大島康裕
事務局長……川副春海	嘉藤哲也
	齋藤美香

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を同封いたしておりますのでご利用ください。

浄土宗平和協会（JPA）

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内
電話075-525-0484 Fax075-531-5105

連絡・問合せ先：浄土宗平和協会事務センター

〒121-0832 東京都足立区古千谷本町2-12-18
電話03-3855-8781 Fax03-3855-8782 メールjpa-info@jodo.or.jp
郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】



平和、共生、みんなのために